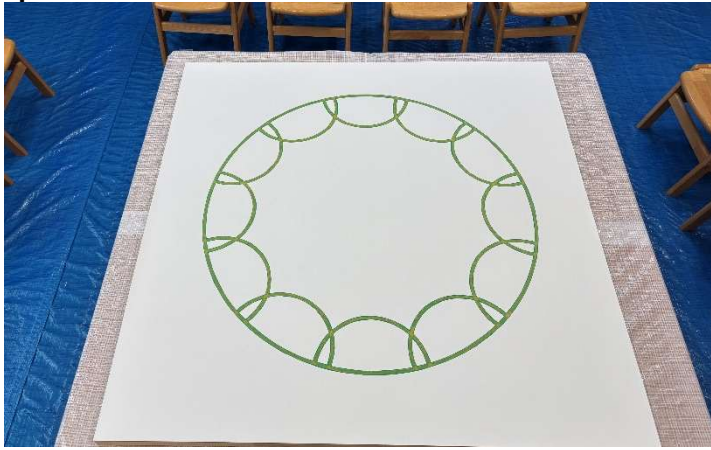


第4回目・5回目「大きな絵画を、みんなで」



2 日間にわたり、これまで顔料を混ぜるところから作ってきた絵具やクレヨンを使い、一辺が 90 センチもある大きな絵画制作に取り組みました。

1 日目は、子どもたちが自分たちで作った水彩絵の具を使い、2 人一組になって下塗りを行いました。



大きな刷毛や、筆、ロールスタンプや、スポンジスタンプなど様々な道具を使い、自分の色とお友達の色を並べたり、あえて重ねてみたりと、相談しながら画面を埋めていきます。

色が混ざり合って変化する様子を見て、「ちょっと変わったね」「〇〇ちゃんの赤色きれいだね」と、自然と対話が生まれ、絵を通したやりとりが広がっていきました。



途中で一度立ち止まり、みんなで絵を囲んで「ちょっと見てみよう」の時間をもちました。「白いところ、どこかな?」「ピンクと緑のところ、少し薄いね」と、気づいたことを出し合いながら、画面全体を見つめます。意見を共有したあと、再び色塗りスタート。子どもたちは話し合いをヒントにしながら、自分たちで考えて色を重ね、白いところのない下塗りが完成しました。



1日目 完成!

2日目

1日目に下塗りをした大きなキャンパスに、白いシートがかかっています。

「あれあれ？」

そう、それは前回、スポット画で体験したマスキングがされていました。

マスキングをしていない部分には、子どもたちが絵具を使って手形スタンプを重ねていきます。



「手形はね、今しかない手の大きさのスタンプだよ」

「同じ色でも、まわりの色によって見え方は変わるんだ」

そんなけい先生の言葉に耳を傾けながら、子どもたちは一人ひとりの「今」を画面に残していきました。色や形の変化に気づき、感じ合いながら、みんなで一枚の絵をつくり上げていきます。



マスキングをはがすと…



最後の仕上げは、自分でつくったクレヨンをつけて、さらに模様を描いていきます。



最後に残っていたマスキングを、みんなでそっとはがすと——そこに現れたのは、保育園のマーク！



絵具もクレヨンも、顔料を混ぜるところから子どもたち自身がつくってきたもの。

その色を重ね、手形を残し、時間をかけて育ててきた一枚の正方形の絵画が、ここでひとつにつながりました。

最後は、みんなで作品を囲んで鑑賞の時間。「どっちを上にしようかな？」と向きを考えながらあらためて見つめてみると、色の重なりや線の表情など、つくっている時には気づかなかった発見が次々と生まれてきました。素材をつくることから始まり、描き、感じ、振り返るまで。みんなで歩んだプロセスそのものが、大切な作品となりました。



寺田倉庫が運営する絵画材料専門店「PIGMENT TOKYO」
けい先生、あんり先生、ゆうき先生ありがとうございました